杉　戸

【所　在　地】南さつま市坊津町坊津町坊 9423 － 1　坊津町立歴史民俗資料館（個人所有）
【種　　別】県指定有形文化財（絵画）
【指定年月日】昭和 29 年５月 24 日

言い伝えによれば，この杉戸は元来坊津一乗院のものであったが，いつの頃か鹿児島の大乗院に移されていたもので，廃仏毀釈の際，再び坊津に送り返され，以来，長井家に収蔵されてきたものである。縦 178cm，横 96.5cm で，約８ cm の黒漆塗の縁が回され，４枚建ちで杉板の表裏に絵が描かれている。絵は，右から西王母，棕梠竹と思われる植物，巌（大きな岩の）上の鷹，朝日，裏は霊獣獏，流れに臨む楓，雪中の竹などが描かれている。西王母，巌上の鷹，獏は，白・黄・朱・緑・褐色等の彩材に桐油らしきものを混ぜて，盛りあげて描かれ，他は墨画である。

作者は不明であるが桃山時代を下らぬものという。なお，昭和 20（1945）年７月 29 日，戦火に見舞われ，西王母の顔面右側に機銃弾の貫通による損傷をうけている。

西王母は，中国西方の崑崙山に住む神女の名。『山海経』によれば人面・虎歯・豹尾・蓬髪（のびて乱れた髪）とあるが，しだいに美化されて，前漢の『准南子』では，不死の霊薬をもった仙女とされ，さらに，「列子・周穆王が西征してともに瑶池で遊んだ」といい，長寿を願う漢の武帝に仙桃を与えられたという伝説も生まれ，漢代には西王母伝説が広く流布した。

わが国では，周の穆王の許へ仙女西王母の化身である女が仙桃の実をもって現われるという「西王母」の能楽によって広く流布している。